

濁流 日常襲う

街路灯がともる中、
停電と断水が続くタ
ワマンション=18
日午後4時30分ご
ろ、川崎市中原区



71河川128カ所で決壊

静岡・伊豆半島への上陸から19日で1週間の台風19号は、各地に深い爪痕を残した。これまでの共同通信の集計で犠牲者は79人となり、行方不明者は10人。堤防も71河川128カ所で決壊した。仮堤防の設置が始まったが、被災地は19日にかけて再び大雨とな

る恐れがある。断水が続く中、冷え込みも強まってきた。避難所に身を寄せる住民らには不安が広がる。(1面参照)

東日本を縦断した台風の主な被害は12日、千葉県市原市で発生した竜巻とみられる突風による家屋の破壊で始まった。一夜明けた13日以降にな

ると、深刻な事態が次々と判明。長野市穂保の住宅地には堤防が決壊した千曲川から濁流が流れ込み、相模原市では小学生2人を含む家族4人が車ごと川に転落し、命を落とした。大規模な浸水が起きた宮城県丸森町や、犠牲者が最も多

タワマンもろさ露呈 配電盤、ポンプ浸水で停止

川崎市

台風19号による大雨に見舞

われた川崎市中原区にある47階建てのタワマンマンションは、浸水で地下の配電盤が破壊され、停電に加え、電動ポンプの停止で断水も続いている。建築基準法で厳格な地震対策が義務付けられているタワマンマンションだが、法の定めのない水害には、もろさを露呈した形だ。道内でも札幌

市で建設が相次いでおり、専門家は「川崎の事例を教訓に対策を進めるべきだ」と警鐘を鳴らしている。

18日、薄暗くなった夕方になっても、約1500人が入居するタワマンマンションは部屋の明かりがつかなかった。「タワマン(タワーマンション)は災害に強いという慢心があった。ここまで水に弱いとは…」。中層階に住む60代男性はうなだれた。

市で建設が相次いでおり、専門家は「川崎の事例を教訓に対策を進めるべきだ」と警鐘を鳴らしている。18日、薄暗くなった夕方になっても、約1500人が入居するタワマンマンションは部屋の明かりがつかなかった。「タワマン(タワーマンション)は災害に強いという慢心があった。ここまで水に弱いとは…」。中層階に住む60代男性はうなだれた。

住民らによると、マンションは浸水を止める土のうを備えていなかったという。住民はエレベーターが使えないため、階段での上り下りを強いられる。水や簡易トイレが配られ、近くのフィットネスクラブなどではシャワーを開放しているが、住民は疲れがたまり、マンションから一時避難する人もいる。

電気設備や水道の電動ポンプは、2階以上を有効活用するため、地下や1階に設けるマンションが大半。「浸水から守る対策は、あくまで任意」(国交省)なのが実情だ。道内では、昨年9月の胆振東部地震に伴う全域停電(ブラックアウト)の際、タワマンションを含むマンションで停電に加え、断水が相次いだ。北海道マンション管理組合連合会(札幌)のアンケータによると、112組合のうち、58組合が地震直後に断水したと回答。大半は川崎市の例と同様、停電に伴う電動ポンプの停止が原因だった。

1級建築士で、NPO法人北海道マンション管理問題支援ネット(札幌)の佐藤潤平さんは「自分が住むマンションの給水方式や、電気室の位置を確認しておくべきだ」と指摘。その上で浸水対策として、電気室の気密性を高める工事をしたり、土のうを備えたりするなど「必要なことは住民間で議論すべきだ」と話している。(酒井聡平)

建築基準法は、超高層建築物には厳格な地震対策を講じ、国土交通相の認定を受けよう義務付けている。一方で、浸水対策には規定がない。